

精神障害者を

地域で支えたい

精神障害を持つ人たちが、地域の中で生き生きとくらしをよび、入院に頼らない、訪問中心の治療や支援をすすめている診療所があります。千葉県市川市にある「しっぽふぁーれ」です。

千葉・市川 「しっぽふぁーれ」



伊藤院長

「しっぽふぁーれ」はイタリア語で「やればできる」という意味です。イタリアでは精神科病院を廃止し、入院治療によらないで地域でくらしながら治療やリハビリテーションを受けることが可能になっています。「市川でもそういう診療所をやればできる」という想いをこめました。このうのは、院長の伊藤順一郎さんです。昨年まで国立精神・神経医療研究センターで部長をつとめていました。

誇りもち肯定的

精神障害をもつ地域社会の中でかろうに生活していきけるよう支援する精神医療を伊藤さんが目指すようになったのは、2000年ごろ。アメリカの精神医療システムを見て回ったことがきっかけです。何度も日本と米國を往復しながら大都市から中小都市まで、

行政、事業所などを調査しました。そこで知ったのがACT(包括型地域生活支援プログラム)です。ACTは精神障害を持つ人たちの訪問し、地域で粘り強く支えています。「そこで働いている人の考え方が力強く、肯定的でこのシステムに誇りをもっている」と

人と人との関係

「しっぽふぁーれ」は同じ建物にあるNPO法人の訪問看護ステーションなどとチームを組んで訪問活動をしています。両方のスタッフを合わせると、精神科医が2・5人(3人中1人が非常勤)、看護師が7人、作業療法士、精神保健福祉士などが5人、その他事務スタッフなどいます。医療支援だけではなく、生活上の支援や就労支援もできる多職種によるチームです。「医療が担うのは限られた領域で、生活支援、就労支援を下さいます」と伊藤さんはいいます。

互いに支え合う

地域で患者を支えるためには、多職種のチームが地域に多くあることが大事だと伊藤さんはいいます。「しっぽふぁーれ」のような診療所が人口10万人当たり1カ所ぐらいは必要だと伊藤さんはおっしゃっています。人口約47万人の市川市の場合4〜5カ所ということになります。

今後目指す方向について伊藤さんは「専門家だけでなく、当事者である患者や家族、それに市民も参加して互いに支え合う地域精神医療を実現していきたい」と語ります。

入院に頼らず訪問中心の診療

訪問診療をすすめる診療所「しっぽふぁーれ」
千葉県市川市



受け付けに置いてある伊藤院長とあった人形の診療所案内

生活や就労もサポート